

令和 7 (2025) 年度農産物直売所・農村レストラン等の都市農村交流施設の利用状況について

令和 8 (2026) 年 10 月 1 日 栃木県農政部農村振興課

- 令和 7 年度の都市農村交流施設の利用者数は、前年度より 116 万人多い 2,045 万人（令和 6 年度比 106%）となり、新型コロナウイルス感染症の流行前の平成 30 年度を上回った（図 1）。
- 都市農村交流施設の売上額は、過去最高の 266 億円となった（令和 6 年度比 108%）。

1 農産物直売所の動向（図 1・図 2）

- （1）利用者数は、前年度より 19 万人増加し、過去最高の 1,720 万人（令和 6 年度比 101%）。
- （2）売上額は、過去最高の 216 億円。施設数は、前年度より 8 施設減の 153 施設。
- （3）前年度に対して売上額を伸ばした施設は 68 施設（約 4 割）。
情報発信の強化や EC サイトの開設、新たなイベントの開催等を行った施設が売上額を伸ばした。

2 農村レストランの動向（図 1・図 3）

- （1）利用者数は、前年度より 3 万人多い 175 万人（令和 6 年度比 102%）。
- （2）売上額は、前年度並みの 21.3 億円。施設数は、前年度と同じ 57 施設。
- （3）前年度に対して売上額を伸ばした施設は 31 施設（約 5 割）。
地産地消メニューやテイクアウトメニューの提供等を行った施設が売上額を伸ばした。

3 観光農園の動向（図 1）

- （1）利用者数は、前年度より 93 万人増加し、過去最高の 150 万人（令和 6 年度比 268%）。
- （2）売上額は、過去最高の 28.3 億円。施設数は、前年度より 7 施設増の 45 施設。
- （3）前年度に対して売上を伸ばした施設は 14 施設（約 3 割）。
独自の体験プログラムの導入や、各種イベントの開催、オリジナル商品の開発などに取り組んだ観光農園が売上額を伸ばした。

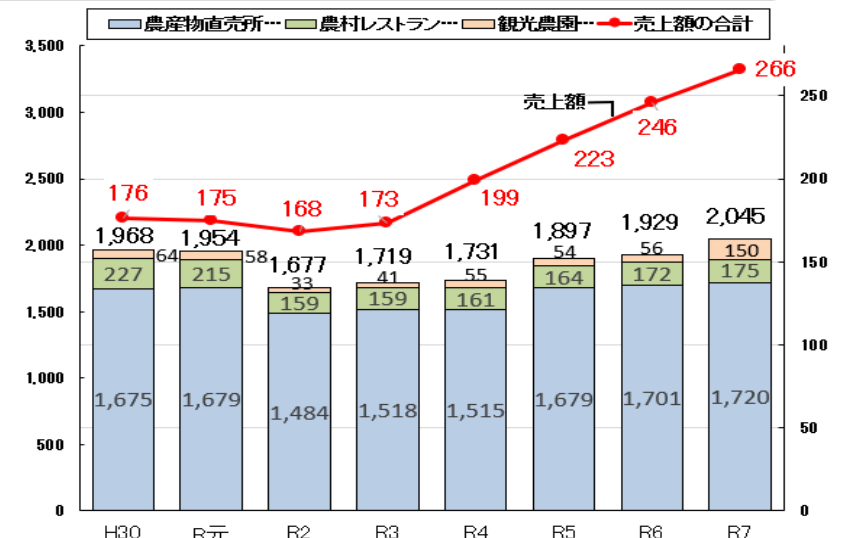


図 1 都市農村交流施設全体の利用者数及び売上額の推移

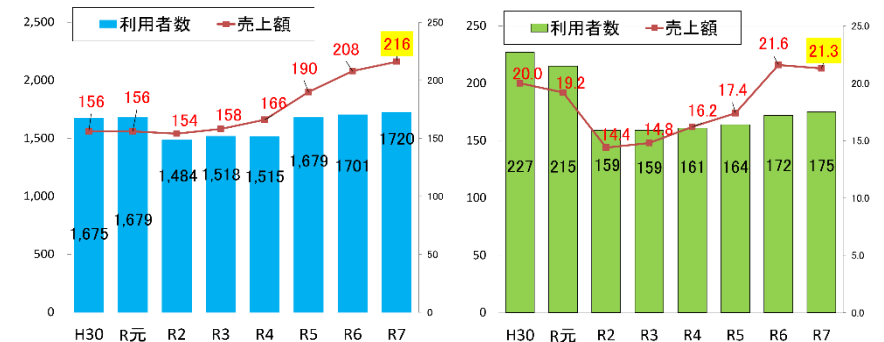


図 2 農産物直売所の利用者数及び売上額の推移

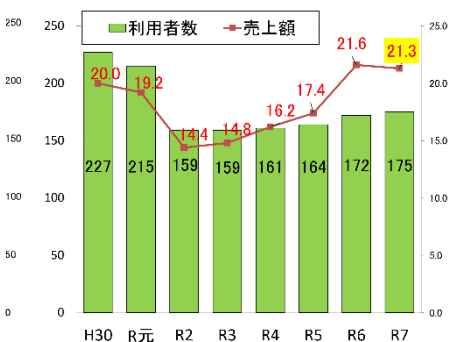


図 3 農村レストランの利用者数及び売上額の推移

【令和7年度のトピックス】

【農産物直売所】

○ 農産物直売所「旬鮮やいた」(矢板市)

**多彩なイベント開催と連携事業により
来場者を拡大**

生産者と密な連携を通じた品ぞろえの強化、また山形県の道の駅寒河江「チェリーランドさがえ」の物産市や新米フェアなど双方の強みを生かした相互イベント等の実施により、リピーターの獲得と新規来場者数が増加した。



【農村レストラン】

○ 那須の食レストラン

那須高原友愛の森 なすとらん
(那須町)

**レストランリニューアルに伴い、地場産
農産物を使った新商品を開発**

地域食材を活用したレストランを新築・リニューアルするとともに、快適な飲食空間や新メニューを充実させ、那須の食の魅力発信と誘客促進に取り組んだ。



【観光農園】

○ BLUEBERRY BASE MOKA (真岡市)

**ブルーベリーを活用した観光農園を
2025 年にグランドオープン**

ブルーベリー狩りを核に、多様な体験プログラムや交流イベントを展開するとともに、誰もが気軽に集える居場所づくりを進め、交流人口・関係人口の創出と地域コミュニティの活性化に取り組んだ。

